

## 日本史 B

(4 問題 100 点)

## I 日本史 B 問題

(20 点)

次の史料(A～C)を読み、下記の問(1)～(9)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。なお、史料の表記は便宜上、改めたところがある。

A

八月癸未(29日)、大宰少貳從五位下藤原朝臣 、表を上りて時政の得失を指し、天地の災異を陳ぶ。因て僧正  法師、右衛土督從五位上下道朝臣真備を除くを以て言となす。

九月丁亥(3日)、 遂に兵を起して反す。勅して、從四位上大野朝臣東人を以て大將軍となし、從五位上紀朝臣飯麻呂を副將軍となす。軍監・軍曹各四人、東海・東山・山陰・山陽・南海の五道の軍一万七千人を徵發して東人らに委ね、節を持して討たしむ。

(注) 下道真備は吉備真備のこと。「節を持す」は天皇の大権を委任されること。

問

- (1) 下線部(a)に関して、白村江の戦いののち、大宰府近くに築かれた朝鮮式山城の名称を1つ記せ。
- (2)  に当てはまる人物の名を記せ。
- (3)  に当てはまる人物の名を記せ。
- (4) 下線部(b)に関して、右衛土府を含めた、令で定められている宮城や京内を警備する武官の総称を記せ。
- (5) 下線部(c)の「勅」を發した天皇の遺品など、当時の最高水準を示す多数の工芸作品が収められた施設の名称を記せ。
- (6) 下線部(d)の「東海・東山・山陰・山陽・南海の五道」には、本州と四国を構成する地域のうち、京・畿内と一道が欠けている。その一道はどこか。

## B

- 一 諸国守護人の事 建武五・後七・廿九御沙汰, 奉行 諏訪大進房円忠

右, 守護を補せらるるの本意は, 治国安民のためなり。人のために徳ある者これを任じ, 国のために益なき者これを改むべきの処, あるいは勲功の賞に募り, あるいは譜第の職と称して, 寺社本所領を押妨し, 所々の

職を管領し, 軍士に預け置き, 家人に充て行ふの条, はなはだ然るべからず。固く  を守り, 大犯三ヶ条のほか, 相綺うべからず。

ここに近年, 引付等の奉書を叙用せず, 請文に及ばずして, いたずらに旬月に涉り, 多く催促をかさぬ。愁鬱の輩勝げて計うべからず。政道の違乱, もととしてここによる。よって違背の科条につきて, すべからく改定の沙汰あるべし。

(注) 「後」はこの場合, 閏を意味する。「相綺う」は関与すること。「叙用」はこの場合, 命令に従うこと。

## 問

- (7) 下線部(e)の建武5年(1338年)に, 足利尊氏は北朝からある職に任じられた。それは何か。
- (8) 下線部(f)の「守護」が荘園領主や知行国主の代官として, 荘園・公領の年貢の徴収をひきうけることを何というか。
- (9)  にあてはまる, 荘園・公領の管理者の名称を記せ。
- (10)  にあてはまる法典の名を記せ。
- (11) 下線部(g)に関して, この時代の守護は従来の「大犯三ヶ条」のほかに, 新たな権限を与えられた。その権限を2つあげよ。
- (12) 下線部(h)の「引付」は, 室町幕府のなかで何をつかさどる機関であったか。簡潔に記せ。

C

定款（昭和十七年二月廿七日制定 昭和十八年三月五日改正）

第一条 本会ハ オ ト称ス。

第二条 本会ハ皇族妃殿下ヲ総裁ニ奉戴ス。

第三条 本会ハ高度国防国家体制ニ即応スル為、皇国伝統ノ婦道ニ則リ、修身  
齊家奉公ノ実ヲ挙クルヲ以テ目的トス。

第四条 本会ハ前条ノ目的ヲ達スル為、左ノ事業ヲ行フ。

一、国体観念ノ涵養、婦徳修練ニ関スル事項。

<sup>(i)</sup>二、国防思想ノ普及徹底ニ関スル事項。

三、家庭生活ノ整備刷新並非常準備確立ニ関スル事項。

四、次代国民ノ育成、家庭教育ノ振興ニ関スル事項。

五、軍人援護ニ関スル事項。

六、国防上必要ナル訓練ニ関スル事項。

<sup>(j)</sup>七、職分奉公、隣保協同ニ関スル事項。

八、貯蓄奨励ニ関スル事項。

<sup>(k)</sup>九、其ノ他必要ナル事項。

第五条 本会ハ満二十歳未満ノ未婚者ヲ除ク日本婦人ヲ以テ会員トス。  
<sup>(l)</sup>

第六条 本会ハ皇族及王公族ヲ名誉会員ニ推戴ス。

第七条 本会ノ中央本部ヲ東京都ニ置ク。

都道府県、郡、市区町村其ノ他適當ナル地域ニ本会ノ支部ヲ置キ、町  
内会及部落会ノ区域ニ班ヲ置ク。但シ郡ニハ支部ヲ置カサルコトヲ得、  
<sup>(m)</sup>  
特ニ必要アルトキハ前項ノ地域ニ拘ラス、職域ニ支部ヲ設クルコトヲ  
得。

朝鮮、カ、樺太、南洋群島ニ在リテハ各本部ヲ置キ、前項ニ  
準シ必要ナル下部組織ヲ設ク。

前三項ノ各本部及支部以下ノ構成ニ関シテハ別ニ之ヲ定ム。

（後略）

問

- (13)  にあてはまる語句を記せ。
- (14) 下線部(i)の「国体観念ノ涵養」のために、1937年に文部省が刊行した国民教化の書物の名称を記せ。
- (15) 下線部(j)の「国防上必要ナル訓練」のひとつで、空からの攻撃に対するものは何と呼ばれたか。その名称を記せ。
- (16) 下線部(k)に関連して、当時の政府が「貯蓄奨励」を推進したのは、ある経済現象を防止するためであった。その経済現象とは何か。
- (17) 下線部(l)に関連して、この「定款」が改正された翌年、国家総動員法に基づき女性の勤労協力を義務づける法令が制定された。それにより、12歳以上40歳未満の独身女性の勤労働員が可能となった。この法令に定める女性の勤労働員組織の名称を記せ。
- (18) 下線部(m)の「町内会及部落会」の下部組織は何と呼ばれるか。その名称を記せ。
- (19)  にあてはまる語句を記せ。

## Ⅱ 日本史 B 問題

(20 点)

次の文章(①～⑤)の  ～  に最も適当な語句を記せ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

- ① 弥生時代の開始にあつては、水田稲作を生業とする集団が、機織の技術や木材加工に用いた新式の磨製石器をたずさえて渡来してきたとされる。しかし、狩猟や戦闘に用いられる弓矢には、おもに縄文時代の石器製作技術で作られた  石鏃が使われている。また、朝鮮半島からの影響により北部九州で造られるようになったと考えられる、数個の石の上に大きな平石をのせて墓標とした  墓から、縄文人と共通した形質の人骨が出土していることも、無視はできないであろう。
- ② 土器をその形でみると、縄文時代では、堅果類や魚介類等の調理・加工に適した  形土器が主であった。弥生時代になると、煮炊き用の甕形土器、貯蔵用の壺形土器、食物を盛るための高杯形土器と機能により形態が分かれたが、本格的な食器といえる杯・椀形の土器は、古墳時代に朝鮮半島から伝わった新しい技術により製作された  に由来する。
- ③ 平氏に焼き打ちされた東大寺の再建において、その中心となったのが重源である。彼は、宋の工人である  に、焼け落ちた大仏を修復させた。また、大規模な建物の再建には、中国から導入した大仏様と称される建築様式を採用した。東大寺に現存する  は、大仏様の代表的な建築物である。
- ④ 後醍醐天皇は、建武新政府に様々な機関を設置した。中央で裁判を担当したのは、後醍醐天皇が最高機関と位置づけた記録所と、新たに設けた  であった。一方、諸国には国司と守護を併置したほか、鎌倉と  国には將軍府を置き、それぞれ親王を將軍として下向させている。
- ⑤ 室町時代、地方でも学問が発展した。15世紀前半、下野国の足利学校が、関東管領もつとめた  によって再興された。以後代々の権力者の保護を受けて繁栄し、高度な教育が行われた。また禅僧桂庵玄樹は、応仁の乱を避けて肥後国に下り、同国の豪族  氏の保護を受けて儒学を教えた。

- ⑥ 戦国大名も検地を行うことがあったが、ほとんどの場合は、家臣や村落に耕地の面積や収入額を自己申告させる  検地が行われていた。また、家臣の収入額を銭に換算した  という基準で把握し、それに応じて軍役を賦課する戦国大名もあった。
- ⑦ 明治初期、民間から政府へ提出された建白書は、しばしば新聞などに掲載されて世論にも影響を与えた。1874年に政府の立法諮問機関である  へ出された民撰議院設立建白書はその著名な例だが、 戦争の最中に片岡健吉が総代として提出したものなど、この後も政府に対して国会開設を要望する建白書は相次いだ。
- ⑧ 条約改正は明治政府の最も重要な外交課題であった。征韓論政変後に外務卿となった  はアメリカとのあいだで税権回復交渉を成功させたが、その条約はイギリスなどの反対で発効しなかった。ついで井上馨は領事裁判権の撤廃をめざしたが、農商務相谷干城や民法の起草などで知られるフランス人法学者  ら、政府内外からの非難をあびて挫折した。
- ⑨ 大正から昭和初期にかけて、河上肇らによって経済学や歴史学などで導入された  主義は、太平洋戦争後には再び思想的影響力を強めた。同じく戦後、政治学者の  や経済史学者の大塚久雄らは、西欧近代との比較から日本の後進性や近代化について論じ、学生・知識人層に影響を与えた。
- ⑩ みずからの戦争体験を書き記した文学作品は数多い。著名な例をあげれば、1938年に発表された火野葦平の『』は日中戦争での従軍体験を記録したもので、 が戦後に発表した『<sup>ふりよき</sup>俘虜記』には、フィリピンでの従軍体験とアメリカ軍の捕虜として過ごした収容所生活とが**つづら**れている。

### Ⅲ 日本史B問題

(30点)

次の文章(A～C)の  ～  に最も適当な語句を記入し、問(1)～(5)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A 1107年、鳥羽天皇が即位した際、天皇の外戚ではない藤原忠実が、当時政治の実権を握っていた  によって摂政の地位を与えられた。それ以来、摂政・関白の地位は外戚とは無関係に忠実の子孫が継承することになる。忠実の息子たちは関白の地位をめぐる対立し、保元の乱の一因ともなった。長男忠通は父と対立したため、次男  が莫大な荘園や摂関家に従属する武士団を与えられた。乱で勝利した忠通は荘園の多くを奪回したものの、乱後に  側に立った武士が処刑されたため、摂関家は独自の武力を失った。

このため忠通の息子たちは、権力を維持するために、有力者や武士と提携しなければならなかった。長男の基実<sup>(b)</sup>は平清盛と、次男の基房は  と、そして三男の兼実<sup>(b)</sup>は源頼朝と、それぞれ提携した。基実の息子基通<sup>(c)</sup>は平氏の都落ちに同道せず、後白河法皇と結んだため、子孫は摂関家嫡流  家として繁栄した。基房の系統は提携した武将の滅亡とともに没落し、兼実の系統九条家が  家と対抗する地位を得た。

九条兼実の孫道家<sup>(d)</sup>は、息子頼経が幕府の将軍となったこともあって、承久の乱後の朝廷で大きな権力をふるうことになる。しかし、皇位継承問題が起こった際、道家は承久の乱で後鳥羽上皇に協力して佐渡に流された  上皇の皇子を擁立しようとしたため、幕府との関係が悪化した。さらに頼経の失脚<sup>(e)</sup>もあって、失意のうちに没した。

問

- (1) 下線部(a)に関して、保元の乱で処刑された武士のうち、長年名門武士団の当主として検非違使などをつとめ、対立した長男に処刑された武将は誰か。
- (2) 下線部(b)の「兼実」は源平争乱期の基本史料となる日記を残した。その名称を漢字二字で記せ。
- (3) 下線部(c)に関して、この時の有様が、藤原氏の氏神の靈験談を主題とした鎌倉後期の絵巻物に描かれている。この絵巻物とは何か。
- (4) 下線部(d)の「道家」は、1235年、無双の権勢を背景に壮大な寺院を京に建立した。のちに京都五山の第4位となるこの寺院の名を記せ。
- (5) 下線部(e)に関して、頼経を失脚させ、京に送還した幕府の執権は誰か。



B 16世紀の半ばに伝来して以来、鉄砲は、兵器としての有用性が明らかになるにつれて、九州から東国へと広がった。<sup>(f)</sup> 1575年の カ は、鉄砲が勝敗を決した最初の合戦といわれるが、鉄砲が合戦時に欠かすことのできない武器となるのに、時間はかからなかった。豊臣秀吉は朝鮮半島への出兵に備え大量の鉄砲を調達し、徳川氏の覇権を決定づけた関ヶ原の戦いでは、東西両軍とも鉄砲隊を組織していた。<sup>(g)</sup> また、鉄砲が伝わって間もない頃から、大砲の使用もみられた。<sup>(h)</sup> これら新兵器の急速な普及を支えたのは、海外からの輸入、そして、国内における製鉄・鍛冶技術の進歩であった。

製鉄技術の革新が与えた影響は、軍事面にとどまらない。17世紀には、砂鉄を原料とする キ 製鉄に<sup>てんびんふいご</sup>天秤鞆と呼ばれる大型の足踏み式鞆が導入された。効率のよい鞆の出現によって、加工しやすい良質の鉄が大量に生産され、用途に応じてさまざまな鉄製の道具が作られるようになった。<sup>(i)</sup> 鉱山を掘るために必要な鑿や槌などの調達が容易になり、鉱業生産は増大した。<sup>(j)</sup> こうした掘削道具は治水や灌漑用水路の工事にも使われ、大規模な新田開発を可能にした。また、刃先が複数に分かれた ク をはじめ各種の農具が生み出され、農業の生産性は高まった。このように、鉄生産の発展は、江戸時代の各種産業の発達を支えたのである。<sup>(k)</sup>

問

- (6) 下線部(f)に関して、ポルトガル人から鉄砲を入手し、日本で初めて国産の鉄砲を作らせたと伝えられる戦国武将は誰か。
- (7) 下線部(g)の「関ヶ原の戦い」の後、徳川家康が支配下においた鉄砲鍛冶の集住する近江国の村はどこか。
- (8) 下線部(h)に関連して、幕末には、大砲の鑄造に適した鉄を生産するために新たな製鉄技術が採用された。佐賀藩が最初に導入したその製鉄設備とは何か。
- (9) 下線部(i)に関連して、江戸時代において、東北地方と並んで鉄の主要な生産地として知られる地域はどこか。
- (10) 下線部(j)に関して、(あ)朝鮮から伝来し、石見銀山で初めて用いられた精錬技術は何か。また、(い)銀に代わる主要な輸出品を産した鉱山を1つあげよ。
- (11) 下線部(k)に関して、江戸時代には、農業に関する技術の改善や知識の普及を目的とする農書が出版された。広く読まれ、農政にも影響を与えた『農業全書』の著者は誰か。

C 近代日本における主要な貿易品目には以下のような推移が見られる。

幕末の開港期以来、1870年代、80年代においても代表的な輸出品目は、とであった。はこの後も、1930年代まで日本の輸出品の代表の地位を占め続けた。はもっぱらアメリカに輸出されていたが、同地での消費動向の変化により20世紀初頭には輸出全体の中での比重は低下した。一方、1870年代から80年代にかけての輸入品目としては、砂糖、鉄鋼、各種の繊維製品などが挙げられるが、1890年代以後、繊維原料であるの輸入が増え、20世紀前半を通じ最大の輸入品となった。これと連動してを原料とする製品の輸入は減少し、1900年代以後は、逆にそれが代表的な輸出品目となっていく事実<sup>(1)</sup>に、この間の国内工業の発展を確認することができる。しかし原料の輸入額は、その製品の輸出額を恒常的に上回っており、日本の貿易収支は第一次世界大戦期を除き、1930年代前半まで慢性的に赤字を示していた<sup>(m)</sup><sup>(n)</sup>。

1930年代から本格的に輸入されるようになったは、1960年代以後は最大の輸入品目となり、1970年代にはその安定供給への不安が経済危機の原因ともなった。輸出では、1960年代以後は機械類、鉄鋼などが代表品目<sup>(o)</sup>となって日本の産業の特徴はすっかり様変わりする。機械類輸出のうちでは、1960年代まではの比重が大きく、世界第1位の輸出量を誇って、その製造業は日本を代表する産業ともいわれたが、1970年代初頭をピークに比重は低下し、以後は自動車や電気機械が代表的輸出品の地位を占めるようになった。

問

- (12) 下線部(1)に関して、渋沢栄一らの構想をもとに、イギリス製機械を導入して1883年に開業した企業の名称を記せ。
- (13) 下線部(m)の「第一次世界大戦期」には、重化学工業の発展が見られ、新興の企業集団の形成を促した。技術者であった野口遵によって創業され、後年に企業集団の中核企業となった会社は何か。
- (14) 下線部(n)に関して、第一次世界大戦中に行われた金輸出停止措置が継続するなかで、大戦後に再び貿易収支が悪化し経済状況が不調に陥ると、金輸出解禁の是非が政策上の争点となった。(あ)1930年に金輸出解禁を断行したときの大蔵大臣と、(い)1931年に金輸出を再禁止したときの大蔵大臣は、それぞれ誰か。
- (15) 下線部(o)に関して、1960年代の好調な輸出拡大の背景には、1949年に設定された固定為替レートにより為替相場の安定が確保されていたという条件もあった。このレートでは、1ドルが何円と設定されていたか。

**IV**

**日本史B問題**

(30点)

次の問(1), (2)について, それぞれ 200 字以内で解答せよ。解答はいずれも所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

- (1) 平安時代における浄土教の発展・広まりについて, 段階的かつ具体的に述べよ。
- (2) 江戸時代初期, 幕府が出した主要な法度をあげ, それぞれ, その対象と内容について述べよ。

日本史B問題は, このページで終わりである。